

カナリア諸島テイデ火山における自然電位観測

Electric self-potential around Teide Volcano, Canary Islands

大野 正夫[1]; 橋本 武志[2]; Padron Eleazar[3]; Gonzalez Pablo[3]; Perez Nemesio M.[3]; ヘルナンデス ペドロ[4]

Masao Ohno[1]; Takeshi Hashimoto[2]; Eleazar Padron[3]; Pablo Gonzalez[3]; Nemesio M. Perez[3]; Pedro Hernandez[4]

[1] 九大・比文・環境変動; [2] 北大理; [3] ITER (カナリア諸島、スペイン); [4] 東大・院理・地殻化学
[1] Dept. Earth Science, Kyushu Univ.; [2] Inst. Seismol. Volcanol., Hokkaido Univ.; [3] Environmental Research Division, ITER, Canary Islands, Spain; [4] Lab. Earthquake Chem., Univ. Tokyo

テイデ山(標高 3718m)はカナリア諸島最大の島テネリフェ島中央にそびえる活動的な成層火山である。2003年10月から11月にかけて、我々はテイデ山の自然電位および火山ガスの調査を行った。今回の発表では主に自然電位の観測結果について報告する。

テイデ山の旧山頂の上に形成された高さ約 150m の火口丘においては、自然電位の面的な分布の調査を行った。その結果、山頂のクレーター内および山腹の火山ガス噴出地帯で正の電位異常が観測され、活発な地下水の活動が示唆された。

また、山頂からカルデラにかけての長基線の自然電位測定では、山頂から約3キロメートルに及ぶ大きな異常が観測された。これはテイデ山の地下の大規模な熱水活動を示唆していると考えられる。

講演では、見かけ比抵抗測定の結果をあわせて、テイデ山地下の熱水活動について議論を行いたい。